

# CO<sub>2</sub>削減と経費節減のために 「エアリー漏れ対策」を実施しましょう!!

CO<sub>2</sub>の削減や電気代などの経費節減には「エアリー漏れ対策」が有効です。  
配管及びリールなどのエアリー漏れ対策を実施して、コンプレッサの無駄な運転を防ぎましょう。  
また、コンプレッサのメンテナンス不良は電気消費量の増大や思わぬ事故につながりますので、  
専門家による定期点検の実施をお勧めいたします。

## 自動車整備業界におけるCO<sub>2</sub>削減の取り組み

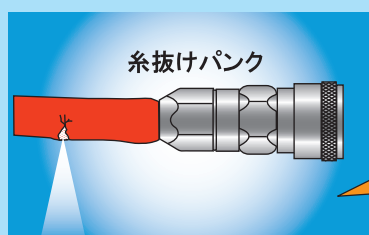
自動車整備業界ではCO<sub>2</sub>排出量を5%削減することを目標に掲げており、エアリー漏れ対策や節電、節水などの省エネ活動が行われています。

このうちエアリー漏れの対策については、整備業界全体がエアリー漏れをなくすことで業界排出量の1%に相当する1万8千トンのCO<sub>2</sub>を削減できると見込んでいます。

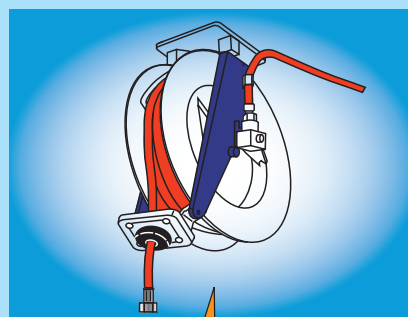
メーカー側の調査によれば、配管などのエアリー漏れ箇所から30cm離れてシューという強い音が聞き取れれば、約20L/minのエアリー漏れがあることとなります。

仮にエアリー漏れが10箇所あると、これをなくすことで年間のCO<sub>2</sub>の排出量を100kg削減することができ、電気代に換算すると約44,000円\*削減できることとなります。

※(860L/minの圧縮機(7.5Kw)を1日8時間、月20日使用し、東京電力のCO<sub>2</sub>換算係数で算出した場合の金額)



ホース内の糸が  
抜け、エアリー漏れが  
発生している状態



リールやホースの  
接続部のエアリー漏れにも  
注意が必要です。



ホースのウレタン  
組織が水と反応して  
分解した状態

# 工場内のエア－漏れ点検

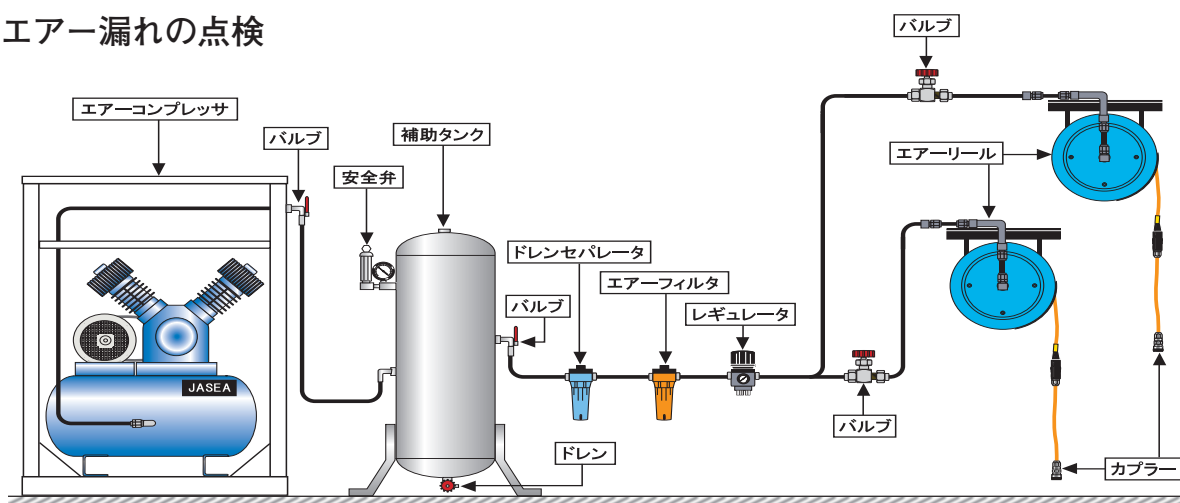
## 1. エア－漏れが発生しやすい箇所

- ・エア－配管／ホース接続部
- ・ドレンセパレータ／エア－フィルタ／レギュレータ／バルブ
- ・リール本体／ホース／カプラー
- ・その他（整備機器のシリンダ／ソレノイドバルブなど）

## 2. エア－漏れ量の目安と年間損失電力費の目安

調査方法	聴 覚	エア－漏れ量の目安	年間損失電力費の目安	
		L/min	1 ヲ所 (円)	10 ヲ所 (円)
30cm離れて	かすかな音	1	220	2,200
	スー音	2	440	4,400
	強いスー音	5	1,100	11,000
	シュー音	10	2,200	22,000
	強いシュー音	20	4,400	44,000

## 3. エア－漏れの点検



※工場内を巡回してエア－漏れの発生箇所を確認し、その数を記載して損失を計算してみましょう。  
 [エア－漏れは部品交換や補修で止めることができますので、販売店へご相談ください。]

点検箇所	エア－漏れの発生箇所	定期交換の目安	エア－漏れ発生数					備 考 (発生箇所等の詳細)
			かすかな音	スー音	強いスー音	シュー音	強いシュー音	
コンプレッサ 補助タンク	エア－配管／ホース接続部	適時						
	安全弁	適時						
	その他 ( )	—						
周 辺 機 器	エア－配管接続部	適時						
	ドレンセパレータ	適時						
	エア－フィルタ	1年						
	レギュレータ	1年						
	カプラー	1年						
	バルブ	1年						
	その他 ( )	—						
エア－リール	リール本体	適時						
	一次側ホース	2年						
	二次側ホース	2年						
	カプラー	1年						
エア－漏れ量の合計	エア－漏れ発生数							
	エア－漏れ量 (L/min)		1	2	5	10	20	
年間損失電力費		[L/min]	[円]	(エア－漏れ量の合計 × @ 220円)				